

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 C. 課題等解決のため再検討する必要がある	理由	やらなければならない事業であるが、その手法については、その都度、状況を考慮し再検討する必要がある。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	全ての事業完了まで長期に及ぶが、事業は完了させなければならない。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	野木第二工業団地の本格稼働に合わせて、渋滞の緩和や工業の振興に繋がるよう交差点の拡幅、右折レーンの設置等順次整備していきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	野木町の工業振興を担う主要な幹線道路のため、計画立てて順次整備を進めていきたい。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
C. 事業継続			令和元年に野木第二工業団地が整備完了し、団地内道路の整備が終了している。連絡道路である野木工業団地線の拡幅整備の推進をしていきたい。	
3次評価	町長	評価	今後の方向性	

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	一級幹線5号線(若林)改良事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうらおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	土木技師	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	上下水道課、子ども教育課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H26.4 ~ R4.3
	事業内容	若林1自治会より要望 道路改良(拡幅、歩道設置)を行う。 通学路安全対策(社会資本整備総合交付金導入予定) L=450m W=12m		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	会計		予 算 科 目		7 款	2 項	2 目	
	事業費	区 分	単 位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)
		コスト総額	千円		32,708	31,263	5,694	42,854
事業費等	千円		30,932	29,447	3,900	41,000	0	
財源内訳	国支出金	千円		13,200	10,505	2,145	16,720	
	県支出金	千円						
	地方債	千円		14,600	17,000	1,400	21,800	
	その他	千円					2,480	
	一般財源	千円		3,132	1,942	355		
人件費	千円×人役		1,776	1,816	1,794	1,854	0	
正規職員	千円×人役	5,920 × 0.30		6,053 × 0.30	5,981 × 0.30	5,981 × 0.30	5,981 ×	
正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×		470 ×	300 ×	300 × 0.20	300 ×	
その他職員	千円×人役	×		×	×	×	×	

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
	道路改良工事	改良工事	m	199	199	100.0	130	130	100.0
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
	歩行者が安全に通行できるようになった 道路が拡幅され、カーブも緩やかになったため走行の快適性が高まった			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	ある程度、計画通りに進行しているため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	工事契約済みであり、本年度中に事業が完了する予定である。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	予算も確保でき計画通りに進んでいるため、令和3年度をもって事業が完了する予定である。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			E. 事業統合・廃止の検討	令和3年度中に事業が完了する予定である。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
E. 事業統合・廃止の検討			令和3年度中に事業が完了する予定である。	
3次評価	町長	評価	今後の方向性	

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業としているが、整備方針が定まっていないため、不透明な部分もある。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったためA評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 A. 実施済み・できない	理由	一般道路整備、水防拠点整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないとできないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道及び災害避難地の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	国土交通省の協力により事業を進めているため、この手法で進めていきたい。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	地権者の合意は得られているので、予算さえ確保できれば事業は完了できる。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	事業主体の国土交通省や地元住民と連絡調整を図りながら事業を進めていきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	道路整備事業、盛土事業、広場整備事業と続く事業であるが、地元や関係機関と調整しながら事業を進めていきたい。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
C. 事業継続			国土交通省に水防拠点整備事業の早期完成を要望し、国の盛土工事の完了時期に合わせて、広場整備工事等を進めていきたい。	
3次評価	町長	評価	今後の方向性	

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	二級幹線4号線(第一松原踏切)改良事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうらおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	係長	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	こども教育課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H26. 4 ~ R3. 3
	事業内容	松原区より要望 踏切及び道路改良(拡幅、歩道設置)を行う。 通学路安全対策(社会資本整備総合交付金) L=130m W=8. 5m~10. 45m		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	会計		予 算 科 目		7 款	2 項	2 目	
	事業費	区 分	単 位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)
		コスト総額	千円	44,114	44,146	119,849	0	0
事業費	事業費等	千円	42,930	42,330	118,055	0	0	
	財源内訳	国支出金	千円	11,194	21,450	65,494		
		県支出金	千円					
		地方債	千円	11,900	16,600	47,370		
		その他	千円					
		一般財源	千円	19,836	4,280	5,191		
人件費	千円×人役	1,184	1,816	1,794	0	0		
	正規職員	千円×人役	5,920 × 0.20	6,053 × 0.30	5,981 × 0.30	5,981 ×	5,981 ×	
	正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×	
	その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×	

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
	用地買収、物件補償道路詳細設計を実施 JR東日本との協定締結			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
			協定締結	件	2	2	100.0	2	2
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
	通学する児童・生徒が安全に踏切を渡れるようになった。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
			歩道の整備				1	1	100.0

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	計画通りに進行しているため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 C. 終了すべき(した)事務事業である	理由	令和3年3月に完了

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	令和3年3月に完了した事業である。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			E. 事業統合・廃止の検討	令和3年3月に事業完了
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
E. 事業統合・廃止の検討			令和3年3月に事業完了	
3次評価	町長	評価	今後の方向性	

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	二級幹線4号線(第一松原踏切)改良事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	係長	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	こども教育課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H26. 4 ~ R3. 3
	事業内容	松原区より要望 踏切及び道路改良(拡幅、歩道設置)を行う。 通学路安全対策(社会資本整備総合交付金) L=130m W=8. 5m~10. 45m		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	会計				予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)	
		コスト総額	千円	0	0	10,520	0	0	
		事業費等	千円	0	0	9,922	0	0	
		財源内訳	国支出金	千円			5,203		
			県支出金	千円					
			地方債	千円			3,830		
			その他	千円					
		一般財源	千円			889			
	人件費	千円×人役	0	0	598	0	0		
正規職員	千円×人役	5,920 ×	6,053 ×	5,981 × 0.10	5,981 ×	5,981 ×			
正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	道路改良工事			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	松原第一踏切付近の交差点が整備され、通学する児童・生徒の安全性が高まった。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	計画通りに進行しているため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 C. 終了すべき(した)事務事業である	理由	令和2年12月に完了した。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	松原踏切拡幅に伴い実施した事業であり、完了済みである。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			E. 事業統合・廃止の検討	令和2年12月に完了した事業である。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			E. 事業統合・廃止の検討	令和2年12月に事業完了
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	二級幹線9号線他1路線道路改良事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	主任	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	生活環境課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H31.4 ~
	事業内容	住民要望(南赤塚環境整備事業) 道路改良(片側側溝整備実施。) L=630m W=6m		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	会計		予 算 科 目		7 款	2 項	2 目	
	区 分		単 位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)
	事業費	コスト総額		千円	0	3,179	3,568	10,198
事業費等		千円	0	2,574	2,970	9,600	36,700	
財源内訳		国支出金	千円					6,500
		県支出金	千円					
		地方債	千円					17,500
		その他	千円					
		一般財源	千円		2,574	2,970	9,600	12,700
人件費		千円×人役	0	605	598	598	598	
正規職員		千円×人役	5,920 ×	6,053 × 0.10	5,981 × 0.10	5,981 × 0.10	5,981 × 0.10	
正規職員時間外勤務		千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×	
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×	

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
	現地測量の実施 用地測量、境界確認 道路改良工事	平面測量	m	630	630	100.0			
		用地測量	m				630	630	100.0
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
	工事施工に向けて事業が進捗した。								

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある	理由	国庫補助対象とし、町負担の軽減を図りたい。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	予算さえ確保できれば、順次、事業は進めていける。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	長期間、事業が停滞していたが、令和元年度より着手。工事延長が長く事業規模が大きい事業のため、国庫補助を利用出来るよう準備する。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	地元の要望が非常に強く、時間はかかってしまったが現地測量から着手した。早急な整備により、地元との良好な関係構築に努めながら事業を実施する。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
C. 事業継続			南赤塚地区環境整備の一環の道路でもある側溝整備であるため早期に整備していきたい。	
3次評価	町長	評価	今後の方向性	

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	地権者の意向や国庫補助金の付き具合に左右され、長期に及ぶ事業になる。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	令和7年度の完成に向けて、古河市と協力を図りながら事業を進めていきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	早期の完成に向けて古河市と連絡協力を図りながら、少しずつでも進めていきたい。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
C. 事業継続			令和2年度末現在で用地取得率約97%、事業費ベース進捗率約60%まで進捗している。古河市と連携協力し残る用地取得に努め、早期完成に向けて進めていきたい。	
3次評価	町長	評価	今後の方向性	

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	野木40号線改良事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	土木技師	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民、野木工業団地関連利用者	実施期間	R2 ~ R3
	事業内容	野木40号線の道路改良、排水工事 L=200m、W=7.5m 社会資本整備総合交付金対象事業		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	会計				予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)	
		コスト総額	千円	0	0	0	24,598	0	
		事業費等	千円	0	0	0	24,000	0	
		財源内訳	国支出金	千円				11,000	
			県支出金	千円					
			地方債	千円				11,700	
			その他	千円					
		一般財源	千円				1,300		
	人件費	千円×人役	0	0	0	598	0		
正規職員	千円×人役	5,920 ×	6,053 ×	5,981 ×	5,981 × 0.10	5,981 ×			
正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	測量設計			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
							200	200	100.0
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	工事施工に向けて事業が進捗した。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	計画通りに進行しているため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 C. 終了すべき(した)事務事業である	理由	令和3年12月に完了予定である

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	今年度で完了する事業である。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			E. 事業統合・廃止の検討	今年度に完了する事業である。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			E. 事業統合・廃止の検討	今年度に完了する事業である。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	やらなければならない事業であるため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	工事延長が長いと、事業完了にまだ時間がかかるが、工業団地周辺の安全面の向上を図るため着実に事業を進める必要がある。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	側溝に蓋がない箇所を順次整備していく。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 周辺の企業と協議しながら、年次計画をたてて、蓋版据付を実施していく。
	2次評価	所属長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 昭和38年の野木工業団地土地区画整理事業完成時から側溝蓋が未設置の状態である町道である。令和元年に完成した野木第二工業団地への連絡道路でもあるため、側溝蓋を設置し安全性を向上させたい。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	計画通りに進行しているため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 C. 終了すべき(した)事務事業である	理由	令和2年11月に完了

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	令和2年11月に完了した事業である。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			E. 事業統合・廃止の検討	令和2年11月に完了した事業である。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			E. 事業統合・廃止の検討	令和2年11月に事業完了。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	中谷南赤塚3号線改良事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	主任	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	生活環境課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H29.4 ~
	事業内容	住民要望(南赤塚環境整備事業) 道路改良(拡幅し、側溝を整備する。) L=360m W=5m		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	会計		予 算 科 目		7 款	2 項	2 目		
	区 分		単 位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)	
	事業費	コスト総額		千円	0	2,464	8,144	10,198	25,598
事業費等		千円	0	1,859	7,546	9,600	25,000		
財源内訳		国支出金	千円					2,000	
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円		1,859	7,546	7,600	25,000	
人件費		千円×人役	0	605	598	598	598	598	
		正規職員	千円×人役	5,920 ×	6,053 × 0.10	5,981 × 0.10	5,981 × 0.10	5,981 × 0.10	5,981 × 0.10
		正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×	300 ×
	その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×	×	

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
	路線測量の実施			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
		路線測量	m	380	380	100.0			
		道路詳細設計	m				370	370	100.0
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
	次年度以降、次の工程へ進めることになった。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	計画通り事業を進捗していきたい。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	<p>主担当者</p> <p>事業が一時休止になっていたが、令和元年度より再開。段階的ではあるが、計画的な実施に努めたい。大規模な事業であり、地元注目度の大きいことから、着実な執行により地域の信頼を得ていきたい。</p>
(2) 評価・今後の方針	<p>1次評価</p> <p>担当係長</p> <p>評価 C. 事業継続</p> <p>今後の方向性 地元の要望が非常に強く地域住民との関係構築のためにも事業を進めていきたい。</p>
	<p>2次評価</p> <p>所属長</p> <p>評価 C. 事業継続</p> <p>今後の方向性 狭小な道であり、沿道に住まれている方の車や農耕車の通行に支障があるため、早期に整備していきたい。</p>
	<p>3次評価</p> <p>町長</p> <p>評価</p> <p>今後の方向性</p>

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	潤島61号線改良工事事業		(2) 新規・継続評価の別			継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部	
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課	
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係	
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	主任		
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	生活環境課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例					

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	R2. 4 ~ R2.12
	事業内容	住民要望 道路改良(舗装工、側溝を整備する。) L=36m		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	会計				予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)	
		コスト総額	千円	0	0	4,613	0	0	
		事業費等	千円	0	0	4,015	0	0	
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円			3,610		
			その他	千円					
		一般財源	千円			405			
		人件費	千円×人役	0	0	598	0	0	
正規職員		千円×人役	5,920 ×	6,053 ×	5,981 × 0.10	5,981 ×	5,981 ×		
正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	道路改良事業			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				道路改良工事	m				36
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	側溝の敷設による道路排水の向上が図れた。 砂利道を舗装道路にしたことにより、走行快適性が図れた。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	計画通りに進行しているため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 C. 終了すべき(した)事務事業である	理由	令和2年9月に完了

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	令和2年9月に完了した事業である。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			E. 事業統合・廃止の検討	潤島61号線の事業は完了したが、近隣にあり要望箇所でもある潤島62号線の側溝敷設、舗装工が残っているため、こちらの事業を早急に整備していきたい。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
E. 事業統合・廃止の検討			令和2年9月事業完了。	
3次評価	町長	評価	今後の方向性	